

第3分科会 第1会場

「安心して住み続けられる
まちづくりのとりくみ」

ホテルグランヴィア岡山 3F クリスタル(A)

演題番号 3-1-1

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
三重	みえ医療福祉生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
フクオカ ヌキ 福岡 由紀	組合員活動部	第3分科会

発表テーマ
Win-Winの関係で なかまも増えて にっこ にこ がーこのパントリー3年の軌跡

内容（発言要旨）

診療所で月に1回フードパントリーを始めて3年ちょっと経ちました。名前は「がーこのパントリー」です。うちの特色は医療機関でパントリーをしているということと、渡している食料の9割が「コープみえ」の協力によるもの、受け取れる対象者がひとり親世帯、高齢者の貧困世帯と限定していることです。パントリーを始める際に当時の組合員活動部の課長に報告したら、「きっと新しい担い手が室の山みたいにかくさん見つかると思うよ。頑張って」と声掛けをしてもらいました。その言葉を何気に聞きながら、まずは食料確保をするためにコープみえと食料提供の協定を締結したこと、市役所の子ども未来課の担当者の人から、ひとり親世帯を紹介してもらうことから始めました。パントリーを継続しながら、食料提供をする側される側がともに影響され、それぞれが自分たちは何ができるかを考えるようになりました。立場は違っても誰かのために役に立ちたい、その想いはみんな同じだということを3年間の活動を振り返りながら報告します。

所属している組織の概要	
活動拠点は三重県北部に位置する桑名市です。知る人ぞ知る「その手は桑名の焼き蛤」で有名ですが、焼き蛤を安価で食べられる食堂はまかぜが伊賀町診療所の近くにありま。桑名地域の組合員数は2500人弱です。	
TEL 0594-23-0313	メール igamatil@k-hewcoop.jp

演題番号 3-1-2

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
和歌山	和歌山中央医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ナカジマ カズオ 中嶋 一雄	まちづくり組合員 活動推進部 部長	第3分科会

発表テーマ
地域でひろがる助け合いの活動とフードバンクの取り組みについて

内容（発言要旨）

各地域で広がる和歌山中央医療生協の「助け合い」活動や、ひとりぼっちをなくす取り組みを報告。
また、これまで8回開催してきたフードバンクの取り組みで生まれてきた地域との繋がりボランティア支援の輪
さらに継続してきたからこそ見えてきた「助け合い」活動の難しさと、職員・組合員の成長と学びを発表します。

所属している組織の概要	
和歌山中央医療生協（組合員数23,379人、出資金1,130,828,619円 2024年3月31日） 活動地域は和歌山県下で、中心は和歌山市（人口約35万人）とその周辺市	
TEL 074-5121	メール nakajima-k02@outlook.jp

演題番号 3-1-3

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
神奈川	医療生協かながわ生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
川本 修三 <small>カワモト シュウゾウ</small>	本部 育成室長(医療生協 かながわ瞳班班長)	第3分科会

発表テーマ
地域で生きる楽しい職員班会 ～フードパントリーへ形を変えて～

内容（発言要旨）

2018年11月、職員5名と退職者1名で、業務を離れ地域で活動を行おうと班を立ち上げた。それぞれが地域でやりたいことを出し合いながら会場探しも平行し行った。地域の居酒屋で打ち合わせを行っている時、店主より「場所を貸してもよい。こども食堂に興味がある」と申し出があり、その場所で店主も一緒に班活動の取りかかりとして「地域食堂」を行うことにした。

2019年7月に第1回を開催し、月1回の開催を継続しているが、コロナ禍の影響を受け、フードパントリーへ変更している。10名に満たない人数で始まったが、社会福祉協議会との連携も密になり、今年4月現在で約30世帯70名、2歳から86歳までと増加し、年齢層も幅広いものとなっている。

更に神奈川県の子ども食堂・地域食堂ネットワークへ参加、市のネットワークの立ち上げにかかわるなど地域での連携も深まっている。

課題は多いが、継続できているのは地域の要望に添った活動になっていること、班員のやりがいや楽しみとなっていることが大きな要因である。

所属している組織の概要	
発表する班の活動地域は神奈川県藤沢市六会地区で藤沢市の北部にある。藤沢市の人口は約435,000人、六会地区には約36,000人。組合員数は藤沢市全体で約4,100人、北部地域で約500人。市内の事業所は診療所1か所。	
TEL 045-862-9860	メール ikusei01@mc-kanagawa.or.jp

演題番号 3-1-4

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
新潟	新潟勤労者医療協会・下越病院	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
机 文明 <small>ツキ アキ</small>	健康友の会新津総支部 事務局員	第3分科会

発表テーマ
「秋葉区食料生活支援の活動を通じて見えて来たもの—住みよいまちづくりのために今、必要とされるもの—」

内容（発言要旨）

私たち下越病院健康友の会は新日本婦人の会や生活と健康を守る会等、他の民主団体の協力を得ながらコロナ禍で生活に困窮する人達への生活支援をという主旨で「秋葉区食料生活支援プロジェクト」という企画を立ち上げ、2021年5月より、おおむね2ヶ月に1回のペースで秋葉区内各地域のコミュニティーセンター等の会場を借り、各種食料や洗剤・トイレトペーパー・生理用品等、生活必需品の無料提供を行ってまいりました。もともとはこの企画を立ち上げる前年（2020年）秋、「コロナ禍で生活に困っている人達の困りごと相談の活動を始めたい」ということから「困りごと無料相談所」を開設したいという企画が持ち上がったのですが、「生活に困っている人はそのことを人に話すのに抵抗があるものなので、それではなかなか来てくれないだろう」ということで、「であれば支援物資を無料配布し、その際にアンケートや相談コーナーの形で利用者の生活状態や困りごとを見出していくのはどうか」ということで始められたのがこの企画でした。毎回150人以上の利用者があり、すでに回数はこの7月で20回を数えます。今回は約3年半に及ぶこの活動の詳細を報告し、生活困窮の実態、そして誰もが安心して住めるまちづくり、幸せに生きられる社会の構築に求められるのは何かということについて発表させて頂ければと思います。

所属している組織の概要	
新潟勤労者医療協会健康友の会・新津総支部は秋葉区の下越病院内に事務局を有し、現在会員総数約1万5000人。各地域支部を単位として、各種班会や健康セミナー・健康チェック等を開催し、病院を支え、住みよいまちづくりのために活動しています。	
TEL 0250-22-6851	メール tsukue_f@niigata-min.or.jp

演題番号 3-1-5

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
宮城	大崎健康福祉友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
サトウ ヒロコ 佐藤 博子	加美支部幹事	第3分科会

発表テーマ
加美支部助け合いの会食料支援を行って

内容（発言要旨）

加美支部では「困ったときはおたがいさま」「支援をお届けいたします」として食料支援を立ち上げ始めて2年になりました。「一人一人」への支援についてはお知らせのチラシを作り、新聞折り込みや、集合住宅へポストイン、また町の福祉課の情報で繋がった方もいます。また支援物資や支援金の提供には、みやぎ生協フードバンク、加美よつば農協、地域の建設会社、また「河北新聞を見て」と地域住民の方々などから支援をいただき実施することができました。今年度6月から夏・秋・冬と100人程の方に届け、生活実態が見え、見守りにつながっています。しかし、この取り組みは一時的な対処療法であり、格差社会化や社会保障の脆弱さの中でのサインです。だからこそ、私たちの活動の中でこの根本原因について知る為、学習会や自治体交渉などが必要になります。この間、学習会では「国保税のしくみ」「風力発電設置問題」「認知予防」などと多面的に開催し、加美町新町長の石山さんと4つの項目について懇談しました。これからも地域に高くアンテナを掲げ「安心して住み続けられる町づくり」「健康づくり」健康長寿を目指し、皆さんと共に当たり前の幸せづくりに近づけていきます。

所属している組織の概要	
活動地域は、宮城県加美郡加美町及び色麻町。活動地域の人口は約28,000人。所属する共同組織の人数は675人（339世帯）。	
TEL 0229-23-8089	メール tadano@zmkk.org

演題番号 3-1-6

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
鳥根	松江保健生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
サド マリ 佐渡 真理	組合員活動委員会事務局 ・フードバンク(理事)	第3分科会

発表テーマ
フードバンクとつながって “未来(あした)へ”

内容（発言要旨）

はじめに・・・地域活動のひとつに他団体（フードバンクしまね あったか元気便）への協力と協同があります。①フードバンクとは②鳥根にも子どもの貧困があるのかどうか ③子どもの貧困は遠い国のことではなく、未来に関わる問題としてどう取り組んでいくのか。

鳥根県自治体別就学援助者数のデータをもとに、フードバンクしまねあったか元気便の取り組みを紹介いたします。

そして、私たち松江保健生協とフードバンクと協同の取り組みとして、食品・時間・お金で応援し組合員さんの大活躍でたすけあいが進んでいます！ フードバンクしまね あったか元気便 年次推移 ひろがり から つながりへ → つながりから 支え合いへ

そして、あったか元気便の応援自販機の紹介とフードバンクの取り組みから こどもたちよりメッセージ紹介。

フードバンクあったか元気便の皆さんより松江保健生協への想い、そしてこの取り組みのこれからの課題についてお伝えいたします。

所属している組織の概要	
活動地域：鳥根県松江市、活動地域の人口：約203,000人、所属する共同組織の人数：32683人（3月末現在）	
TEL 0852-27-3774	メール sosiki@aioros.ocn.ne.jp

演題番号 3-1-7

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
福岡	北九州健康友の会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ノウミ サトコ 能美 聡子	小倉南支部 副支部長	第3分科会

発表テーマ
やってよかった！食料支援

内容（発言要旨）

団地の自治会や病院職員と一緒に食料支援会
2022年11月29日（火）11：00～12：00徳力団地
集会所（北九州市小倉南区）で食料支援会を実施。
目標50食に対して予約数101世帯・130食。来場
者は106人で、133食の支援（目標達成率266%）。
食料はフードバンクライフアゲインさんより、
お米は大手町リハビリテーション病院職員の皆よ
り110kg、友の会員さんたちより60kg。
来場者のほとんどは徳力団地とその周辺の高齡
者でした。中には北九州大学の学生さん5名や小
さなお子さんを連れてお母さんもいました。食料
を受け取った方は、「助かります」や「ありがとう」
と喜んでいました。参加した職員（エスコート部
隊）からは、「食料をもらった後はカートが重く
なり、小さな段差でも苦労していたので、家まで
付き添いをして良かった。」「地域の方とふれあえ
る取り組みで楽しい」などの感想がありました。
食料支援会に来てくれた方々で、今後もつな
がりが特に必要と思われる方35名に対して、お礼状
と返信用の感想記入用紙をお渡しし、17名の方か
ら返信を頂きました。3月のさくらまつりポール
ウォーキングの時にもささやかな食料支援を実施
し、繋がっています。今後も今までの繋がりを大
切にして、その上で新しく繋がっていきます。

所属している組織の概要	
活動地域は、福岡県北九州市小倉南区。活動地域の人口は約20万人。所属する共同組織の人数は約1300世帯。	
TEL 093-592-1166	メール masaharutaka@kenwakai.gr.jp

演題番号 3-1-8

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
広島	本部・組織部	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
ウエムラ アツコ 植村 敦子	城北支部 支部長	第3分科会

発表テーマ
食料日用品無料広場のとりくみ

内容（発言要旨）

2021年7月から、食料支援の「食料&日用品無
料広場」に取り組んでいます。開催数は、2024年
5月末現在で、城北地域16回、ふれあい地域2回
です。延べ1,079人の方に配布、1回平均は60人
です。コロナは収まっていますが、物価高の影響
か、来られる方が少しずつ増えてきました。新規
の方が増え、来られている方の紹介や社協・福山
市から聞いたと言われる方も増えてきています。
生活がたいへんな方に組合員さんがお届けしてい
るところもあります。先日も届けてもらったとい
う方からお礼の電話が入り、「届けてくださる方が、
時々大丈夫ですかと心配して見に来てくれるん
です」と話してくれました。回を重ねるごとに、つ
ながりや新しい広がりもあります。お米や食料の
提供、カンパ金でなんとか賄っていますが、物価
高騰の現在は、継続していくための持続可能な取
り組みを模索中です。

所属している組織の概要	
活動地域は、広島県福山市。活動地域の人口は約41万人。所属する共同組織の人数は約1万2千人。	
TEL 084-999-9900	メール miyazawa@fico-op.jp

演題番号 3-1-9

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
山口	医療生協健文会	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
カワノ ユミコ 河野 由美子	常務理事	第3分科会

発表テーマ	
医療生協健文会 「何でも相談&食材支援」 ずーっと繋がる これからも繋がる	

内容（発言要旨）

・健文会では2拠点で食材支援をおこなっています。組合員や地域の人「困った」をどうにかしたい、人のご縁や繋がりを大切にしたいという思いでスタートしました。限られた食材を多くの人に手渡したいとの思いから1世帯1袋、コロナ禍中も開催しました

・山陽小野田市での開催は偶数月（年金受給直前の土曜日）に第1回目は小野田診療所前で開催。現在は元デイサービスの建物と小野田診療所前で午前・午後でおこない、60～70袋を準備しています。

・宇部市での開催は奇数月第4週目の水曜日、協立病院向かいの生協ふれあい会館で開催。当初50袋だった食材支援は現在70袋を準備しています。無償で頂いた衣類や日用品のフリーマーケットも好評です。

・山陽小野田市では食材費の半分はカンパで賄われ、直接食材を診療所に届けてくれる患者さんや畑にできた野菜を定期的に届けてくれる組合員もいます。診療所の事務職員も支援準備に関わりながら共に進めています。宇部市では「支援されるだけでなく、何かしたい、手伝いたい」との思いがあり、前日準備から多くの方がボランティアスタッフとして関わっています。山口フードバンクからの寄付や組合員カンパ、法人からの助成金を使い食材を準備します。「何が入っていたらいいかな？ちょっとお菓子があるといいな」など食材を買いたず、米の計量、袋詰めなどボランティアスタッフの皆さんがいなければ到底できません。

・2か月に1度会う、それが重なり顔見知りになっていく。気軽に声を掛け合う関係ができ、「本当に困っていること」を話してくださる。小さなきっかけで繋がっていること、広がっていることを実感しています。昨年末から、小さな子どもを連れた女性の参加があります。これからも困っていることや悩んでいる人を自分事として受け止め、隣にいる誰かと顔を見て、話して、繋がっていきたいと思います。

所属している組織の概要	
山口県内全体で18904名の組合員がいます。食材支援カンパについては病院や診療所、歯科でカンパ箱を置き行っています。宇部市は2020年12月28日、山陽小野田市は2021年10月9日からスタート（2か所）。以降、2つのエリアで隔月・定例開催を継続中です（3か所）	
TEL 0836-34-2510	メール sosiki_kenbun@yahoo.co.jp

演題番号 3-1-10

県連名	所属共同組織名又は事業所名	
岡山	倉敷医療生活協同組合	
発表者氏名	所属と役職	分科会番号
キガワ ヨシコ 木川 佳子	支部運営委員	第3分科会

発表テーマ	
地域で取り組む助け合い・支え合いの活動「ザワザワランチ」	

内容（発言要旨）

●浅口市金光町福永宮東地区での「ザワザワランチ」（シルバー食堂的な取り組み）について

- ・はじめるきっかけとなった町内の「子ども食堂」の取り組み
- ・自分たちの住む地域の実情にあわせた活動内容の検討
- ・そしていよいよ開始にむけた準備開始
- ・いざスタートして、わかったこと
- ・コロナ禍の功罪…弁当形式に変えて、広がる協力者の輪、地域の見守り&支えあいの一環に
- ・そしてこれから…行政や社会福祉協議会、地域包括支援センターなどとの関係づくり

所属している組織の概要	
倉敷医療生協は、岡山県西北部を活動エリアとする組合員約63,000人の組織です。浅口市金光町は県西部に位置し約900人の組合員1つの支部で活動しています。	
TEL 086-525-7722 (玉島事務所)	メール katayama_f@kura-hcu.jp